

防火作文の部

☆ 最優秀賞

『火事をなくすために』

広尾小学校 六年 亀田 紬

—火。それは、人の生活で欠かせないものそして、一瞬で姿を変え、家や人、何もかもを飲み込んでしまう恐ろしいもの。

私は、一度だけ火事を見たことがあります。丁度、学童保育に向かうときのことです。すぐ近くの家で火事があり、消防車や救急車が来ていて、サイレンが鳴りひびいていました。火はもう消えていたようですが、黒いけむりがもくもくと空にのぼっていました。そして、白いかべだった家は、まっ黒になってしまいました。

火事とはとても恐ろしいものです。小さな小さなマッチ一本程の火でも、大きくなってしまうと、大切な物、生活、そして、人の命までも奪ってしまいます。ほんの少しの、安易な考えで、自分の命も、いいえ、他の多くの人の命も奪ってしまうかもしれないのです。

そこで、火事をなくすためには、一人一人が火事について考えることが重要になってきます。火事を防ぐ、または非害を減らすには、次の三つのことが私は大切だと思っています。

一つ目は、予防です。例えば出かける前に火の消し忘れがないか点検したり、小さな子供が居る家庭ではライターやマッチを小さな子供のとどかない所に置くなどです。どんな小さな事でも火事は起きます。電話がかかってきたりする時に、こまめに台所の火を消すことで、火がついたり、大きくなったりするのを防ぐことができます。そして、小さな予防をコツコツと続けることによって、自分の命も守り続けることができます、周りの人の命も守ることができます。

二つ目は、万が一火事になった時のことを考えることです。全てのことを防ぐのは、とてもむずかしいことです。ですから、もし火事になってしまった時に、安全に建物からげられるようにしておかなければなりません。例えば、火災報知器を設置したり、避難訓練に参加したりすることです。火災報知器を設置すると、火事が起きたことがすぐにわかって、速く避難することができます。そして、避難訓練に参加することで、もし火事にあつた時に、安全に避難するには、どこを通ればいいのかなどがわかるので、安全に速く避難することができます。

最後に三つ目は、自分自身が火事の恐ろしさを知つ

ておくことです。本当に火事が恐ろしいということを知らないと、火遊びなどにつながります。子供も大人も火事の恐ろしさを知っておき、火事にならないように心がけることが大切だと思います。

今でも、火事でたくさんの人が命を落としています。火は生活の中でとても大切な物です。ですが一歩間違えれば、命を落としてしまう事になります。これから私は、火をとりあつかうときに、今まで以上に注意をし、周りの人にも呼びかけ、火事のない広尾町にしたいです。

☆ 優秀賞

『人と火のかかわり』

広尾小学校 六年 加藤 京華

火は、私たちの生活の中でとても大切な一つの道具だと思えます。料理や花火など他にもいろいろと、火をつかうものや、仕事がいっぱいあります。

でも一歩まちがった使い方をすると、火事になったり、人がけがをしたりなど、危険なことがたくさんあります。

なので私もよくお菓子や料理などをつくったりなどよく火を使うので十分に気を付けるようにしています。

私は火をつかう時にかならず気を付けていることが三つあります。

一つ目は、火を使っている時は火からぜったいにはなれないようにしています。理由は、一度おみそしるを温めている時に目をはなしてしまい、おみそしるがなべからふき出て、ゆかが水びたしになったことがあるからです。もう同じことにならないように気を付けるようになりました。

二つ目は、火をつける前にまわりに燃えやすいものがないか必ず確認するようにしています。理由は、も

のが燃えて家が火事になったりけがをしたらいへんだからです。そしてもうひとつ理由があります。火はとても広がるのがとても早いからです。

三つ目は、火からはなれる時に必ず火を消したりだれかに見てもらおうようにおねがいしてからはなれるようにしています。

こうして理由をかんがえていると、火はとてもこわいものだなあと思えます。でも私たちの生活には、火がないと生きていけないくらい大切なものなので、気を付けてつかいたいと思えました。

この作文を書くことや、火についての勉強をおして、火のこわさをあらためて考がえられたので、とてもよかったです。

これからも火の安全な使いかたを忘れずに安全に火を使っていきたいと思えます。

☆ 優秀賞

『火事を防ぐための見近な注意や点検』

広尾小学校 六年 林 唯斗

みなさんは火事にあつたことはありませんか。火事はとてもこわいことです。火事によつて命をおとす人も少なくありません。

最近、ニュースや新聞で火事の事をよく目にします。火事の原因には台所の火のしまつやたばこ、放火が多いようです。この中でみなさんに関係があるのは、火のしまつです。みなさんは花火をするときに近くに水の入ったバケツを置いていますか。置いていなくなつたら火のしまつがでなくて、火事になつてしまうかもしれません。置いていた人はそのまま続けて、置いていなかった人は次から置くようにして下さい。それで、火事が減るかもしれません。

見近な火災には住宅火災があります。最近ではこの住宅火災による死者が増加しています。そして、その中の大半が六十五さい以上の高れい者であり、その中でも就寝中の火災が多いようです。ぼくの祖母も六十五さい以上なのでとても心配です。みなさんのおじいちゃん、おばあちゃんにも呼びかけて下さい。

そして、火事に一早く気づくための火災警報器や、火を消すための消火器といった道具もあります。みなさんの家には火災警報器や消火器などはありませんか。火災警報器の取り付けは二〇〇六年に消防法改正によつて、義務づけられています。わからない人はお父さんやお母さんに聞いてみて、なかった場合は火事を防ぐために取り付けて下さい。

ここまでは、人によつての火事を紹介してきましたが、火事には、人によつての火事だけではなく、地しんや火山の噴火などによる自然災害でも起きます。これらの対策としてはどこで火事が起こるのか、起きたらどこへひなんするかなど、家族で話し合つてみたらどうでしょうか。

みなさんもここで紹介したような火事を防ぐ方法や、火災警報器の取り付け、家族で火事についての話し合い、呼びかけなどをしながら火事で命をおとす人を少しでも減らすために気をつけて下さい。

☆ 優秀賞

『火災の現状と対策』

広尾小学校 六年 藤枝優生

私は一度、火災に関わったことがあります。それは、まだ学童に通っていた時のことです。学童の近くで火災が起こり、学校待機となったことがあったのです。ようやく学童に着くと、火災が起こった家は、黒こげでまだ消防車やパトカーが何台もいました。私はそれを見て、とても怖くなつたのを今でも覚えています。インターネットで調べてみると昨年の道内での火災発生件数は、なんと約二千二百件も起こっていたということが分かりました。また、昨年の火災で亡くなった人は約八十人、けがをした人は、約二百七十人ととてもたくさんの方が被害にあつたということも分かり、「やっぱり、火災は怖いな。」と改めて思いました。

これらの火災を防ぐには、どうしたらよいのでしょうか。

まず一つ目の方法は、私たち人間が火を使わないようにすることです。しかしこれは、とてもむずかしいことだと思えます。なぜかというと、私達人間は、火を使うことによってたくさんものを作っているか

らです。例えばガラスのコップや、焼き物、炭、料理などが上げられます。人間は、火を暮らして使うので使えないととても不便になってしまいます。では、どうすればよいのでしょうか。

考えられる一つ目の方法は、火を使い終わったらしっかりと後始末をし、出かけたたりする前にもう一度チェックを行えば良いと思います。例えばタバコのポイ捨てをしたりすれば、もしかするとまだ火がついていて、火のもとになるかもしれないし、そこから大きな火事となるかもしれません。他にもガスコンロやストーブなども気をつけなければいけないと思います。

そして二つ目の方法は、もしもの時を考えて行う「ひなん訓練」をまじめに行つてしっかりとひなんの仕方自身につけることだと思えます。そうすれば本当に起こった時にあわてていても行動できると思うからです。

火は安全に使えばとても便利なものだと思います。ですからこれからは、火の取りあつかいに十分注意しながら生活に役立てていきたいです。

☆ 佳 作

『火災をなくすために』

広尾小学校 六年 荒木一真

ぼくは、家が火事になったことがないのであまり、火のおそろしさがわかりません。ですが、火は、体を温めたり、料理をしたり、明かりになったり、色々なことに使える、ほぼ毎日使うような、すごく大切なものだとぼくは思います。

火は、とても便利なものです。ですが、少しでも使いかたをまちがえると、たいへん危険な、おそろしいものになってしまいます。

ニュースを見ている人はわかると思いますが、よくニュースで、火事がおこり、たくさんの人が、お亡くなりになられたと聞いています。このようなニュースを聞いて、ぼくは、火はたくさんの人を死なせてしまうような、たいへん危険なものなんだなあとよく思います。

最初は、なんの害もない、たいへん便利なものですが、大きくなれば、たくさんの人を殺す、大火災となってしまうです。ですから、火は使い終わったら消す、つけている間はその場をはなれない、ちゃんと消えた

かチェックする、などのことをするのが大切です。

もしも、火災になってしまったら、その家の人ではなくても、見つけた人がすぐ消防署に連絡するのが一番いいと思います。小さな台所の小さな火から、火事になると、その家だけではなく、すぐとなりの家へ移り、またそのとなりへ、とどんどん広がっていつてしまいます。そして、大くの命をうばいさつていつてしまいます。

それと、何があっても、絶対にやっつてはならないことがあります。それは、放火です。その家の人に、いやなことをされようがあるうが、なにがあつても、人を殺してもいい、という理由にはなりません。放火が続くと、多くの人の命をうばってしまうので、やらないでください。

火事にならないようにするには、色々な方法があります。火災報知器をつけたり、細めにチェックするなどの方法があります。自分にあつた方法で、一人一人が、自分の身は自分で守ると強く意識することが火災をなくすことにつながると思っています。

これからは、火のおそろしさを十分に知り、きちんとした使い方であつかうようにしたいです。

☆ 佳作

『火事のおそろしさと関わり方』

広尾小学校 六年 大溝彩華
おお みぞ あや か

みなさんは、「火事」はどのようなものだと思いますか。私はとてもこわくて、おそろしいものだと思います。

火事の原因には、「放火」、「注意不足」などがあります。

まず、「放火」は自前には防ぐことはあまりできないと思います。防火ポスターなどで呼びかけたりしても、実際に放火事件は起こっているけれど、そのような呼びかけをすることで、しないよりは減っているのではないかと思います。

次に、「注意不足」についてです。これは、だれにでもありえることだと思います。

例えば、料理をしているときはどのような注意不足で火事が起きてしまうのでしょうか。

それは、ちよつとでも目をはなすと大火事になりかねないことです。これは、特に料理をすることが多い、女の人が気をつけたり、周りの人も声かけをしたりすると思います。

他にも、「火遊び」は、どうでしょう。夏は、花火をすることや、バーベキューをすることが多いです。その後始末をきちんとしなければ、最初は小さな火だつたとしても、大きな火になり火事になってしまいます。周りの植物や、建て物も燃えてしまい、関係のない人まで巻きこまれてしまうかもしれないので、後始末をきちんとするよう確実にするよう心がけるといいと思います。

また、冬にはストーブで火事になることも少なくなっています。灯油ストーブでは、灯油を入れるところのふたをきちんとしめるのを忘れたり、近くにこぼしたりすると、大火事になることも多いようです。

小さな子どもが、ライターの火をつけることのないよう、火をつけるところの部分をかたくしたりなどの身の周りの物にも、工夫がされています。

このように、火と人間は、私たちが生活するうえで切りはなすことはできないものの一つです。火のおそろしさや火事の原因を理解し、対しよしたり意識したりすることで、防げるものばかりです。

これからは、防火の意識をしっかりともちながら火と関わって行きたいと思います。

☆ 佳作

『火災防止のためにできること』

広尾小学校 六年 徳山 凜とく やま りん

親はよく、火事には気をつけなさいという。でも、本当の火のこわさは火事に遭遇した人にしかわからないのではないか。それは、テレビで何人もの人が亡くなったり、怪我をした人の遺族がインタビューを受けていたら、涙をうかべながら話しているから。もしそれが自分だったらと考えると、こわくなる。でも、その場にいた人はもつとこわい思いをしていたと思う。

そして、火災防止のために私達ができること、それは火に注意すること。近頃は、様々な防災グッズがどこにでも売っている。例えば、火災警報器、これは、主に一般住宅に設置され、火災の際に煙や熱を感知して音声やブザー音で警報するもの。これらののおかげで火事に気づき、命を失わずにすんだ人もいたという。でも、いくら便利な道具があるからといって油断してはいけない。自分でも気をつけて、過ごすことも大切なことだと思う。油断して火事にならないようにするために、広尾町では火災防止コンクールを開いていた

り、小中学生に火のこわさを教えていたりしている。このような活動は、とてもいいことだと思う。このような活動をしていても、火遊びをしたり、火に注意しないでいる人が大勢いる。だから火事は減らない。例えば自分の家が火にじゅうぶん注意して暮らしていても、他の家の火事に巻きこまれてしまうようなことがあるかもしれない。

関係のない家や人まで巻きこまれるということは、いけないことだと思う。だから、火をほったらかしにして火災を起こすようなことがないようにじゅうぶん火に注意しなくてはならないということ。火事を防ぐためにも子どもの時から、火の危険を教えていると、大人になったときに火に注意をし、火災が減っていると思う。

一人一人がじゅうぶん気をつけながら火と関わり、町内や学校での防災訓練に参加して命を火災で落とさない町づくりを進めていったらいいと思う。

☆ 佳作

『身近で危険』

広尾小学校 六年 松 山 海 音

家の中で一番身近で一番危険なもの。それは火です。火は生きていくうえで絶対に必要ですよ。そうですね。そうです。料理をしているときなどは、つねに危険となり合わせなのです。

例えばライターの火。小さいですよ。けれど、家のものに燃え移るとどうでしょう。家は灰になってしまふこともあるのです。だからこそ、だからこそ気を付けなければならぬ、家の中の遊びは絶対してはならないのです。

とは言っても、ぼくは火事にあつたことも実際に見たこともないので、防火についてはよく知りません。けれど、家の中の小さな火によつて亡くなつた人をニュースでたくさん見きました。もしあれが自分だったら、と考えるととてもこわくなります。そのようなことにならないために、ぼくたちが一番やらなければいけないことは『火から命を守る』という意識をもつことだと思ひます。防災グッズがあるからといって油断してはいけません。一つの家が火事になることで、近

くの家も巻きこんでしまうことがあります。やはり、防災グッズに頼りすぎずに、自分の意識で行動する方が、命を守る確率が高くなると思ひます。あと、ポスターや標語で町の人に呼びかけたりするのもよいと思ひます。

次は火の消し忘れについてです。家に火のつく物はたくさんありますが、ぼくが一番危険だと思ふのは、タバコです。タバコは家だけではなく、外で吸っている人も少なくはありません。なかには吸つたタバコを道に捨てる人もいます。最初にも言いましたが、火は初めは小さくても、何かに燃え移ればすぐ大きくなります。タバコについては、後始末をするようしつかりよびかけないといけません。

一人一人が『火から命を守る』ことを意識すれば、町みんなが助かるかもしれない。そのことを忘れずに一人一人が心がけていいたらよいと思ひます。

☆ 佳作

『火事を防ぐために』

広尾小学校 六年 湯本紅羽

私は、とても火事がおそろしいものだと思います。なぜなら、ニュースなどで、何人もの死者がでているのでとても怖いのです。

火事を防ぐためには、まず三つのことを守ったら良いと思います。

一つ目は、料理をする時です。理由は、火が強くなったりして、燃えうつる可能性があるから、ふきんなどの燃えるものを近くにおかないことを気をつけたら良いと思います。

二つ目は、ストーブなどです。理由は、ストーブなどの近くに燃えるものを置いていると、火が燃えうつって、火が広まって、家などが全体に燃えうつるから、近くに燃えるものを置かないように、気をつけたら良いと思います。

三つ目は、呼びかけや注意をすることです。子どもが火遊びをしていたら注意することが大事だと思います。注意をしていなかったら、火事になってしまふと思ったからです。あと、子どもだけで花火なども

するのもだめだと思います。危険だからです。呼びかけは「マツチ一本 火の用心」などの呼びかけをした方が良いと思いました。そうすれば、少し、火事を防げると思ったからです。

もし、火事が起きてしまった場合、次の三つのことを守れば良いと思います。

一つ目は、「もどらない」です。理由は、大事なもののなど忘れてもどってしまったら、火にまきこまれてしまうからです。あと、ものよりも命が大事だからです。

二つ目は、「しゃべらない」です。しゃべっていると、けむりを吸ってしまうし、早く逃げられないからです。

三つ目は「おさない」です。ホテルやマンションで火事が起きたとき、おしてだれかが転んだら逆におそくなるからです。

このように、火事を防ぐためには様々な方法があります。火事はおそろしいものです。みなさんも火事にならないように、気をつけるようにしましょう。

☆ 佳作

『火事防止のために』

広尾小学校 六年 吉田 姫菜

みなさんは、火事防止のために、日々行っている事がありますか。私は、火をつけたら必ず消すことを意識し、火災報知器を家に取り付けています。

私の身のまわりで火事になった家が二件あります。一件目は、冬に二階でストーブを消し忘れたことが原因です。みなさんも、寝室や、リビングに、ストーブはあると思います。そんな、身近にある、すごく役立つものが、目をはなしただけで、大火災の原因となります。ですから、ストーブだけではなく、キッチンも、目をはなすときには必ず火を消すようにしましょう。

二件目は同じストーブが原因ですが、違うパターンです。それは、となりの小屋のストーブがつけっ放しになっていて、風が強くて、火が飛び移ったパターンです。このような火事を広めないためには、火から目をはなさない事、火をつけたら消す事が、大切だと思います。このような火事を防ぐためには、一人一人の意識を高める必要があります。そのために町内の避難訓練などには、積極的に、参加するべきだと思います。ですが、小さいお子さんがいるお母さんや、仕事で忙

しい人は、避難訓練に参加できない場合があります。そのような人は、家の中に、火災報知器を付けることや、火の消し忘れがないかチェックすること、火から目をはなさないことなどの、努力が必要だと思います。このような努力を続けていけば、絶対に、火事にはならないと思います。一人一人が意識して、この広尾町を、もつと安全な町にし、火事を防ぐ、努力をしましょう。